

## 井 本 政 信 (いもと まさのぶ)

木 村 英 夫

(財)日本造園修景協会顧問)

明治24（1891）年～昭和32（1957）年。富山県の産、旧姓阿波加。四高を経て大正8年東京帝国大学農学科を卒業。直ちに明治神宮造営局に入り、神苑の造営にあたる。10年都市計画兵庫地方委員会へ移るが、13年には関東大震火災後の帝都復興事業のために設置された内務省復興局に技師として呼び戻されて建築部公園課に勤務し、折下吉延課長の下で公園の計画及び事業にあたり、完成まで勤務。昭和3年この事業により出来た山下公園、野毛山公園が横浜市へ引きがれ、同市に公園課が創設されると乞われてその初代課長に就任、同時に復興局建築部並びに横浜出張所嘱託となる。

昭和8年には都市計画愛知地方委員会技師兼地方技師として愛知県へ赴任したが、翌9年末兵庫県へ転じ、16年8月まで勤務して県立明石公園の改良整備、神戸・西宮の風致地区指定等のほか、都市計画による阪神海岸の防潮堤、再度山ドライブウェーの築造の事業にもあたり、またその間13年5月から4ヶ月間は陸軍省嘱託を兼務して上海派遣軍畠部隊に属し、大上海都市建設基本計



画樹立のための内務省派遣班の一員として現地に赴き、その任務を完了している。16年には大阪府へ移り、土木部都市計画にあって緑地施設の建設に、19年頃からは建物疎開事業にも関与し、終戦を迎えて21年3月に退官。

以上の履歴でもわかるように、井本は計画もさることながら事業に極めて明るかったので、退官後6月には迎えられて明石市助役となり、同市の復興局長を兼ね、同時に兵庫県戦災復興計画専門委員会の委員へも委嘱されて、明石市の戦災復興に尽力している。そして26年4月に郷里の富山県婦員郡四方町長に選出され、29年3月に富山市への合併まで在任した。

氏は先代が回船業を営んでいた井本家へ入夫して3男2女をもうけているが、性は直情径行、一見古武士の風格もあって近より難い面もあった。しかし実務に明るく部下からは慕われており、木村も直接には上海派遣班時代の僅か4ヶ月ではあったが、懇切に指導を受けて今だに忘れられない先輩の一人である。明石市助役に迎えられたのもこの様な人柄だったからではなかろうか。聞くところによると、明石市助役を退きあえて四方町の町長になったのもあや夫人が晩年を生家で心静かに過ごせる様にとの優しい配慮からであった。